



ズワイガニ日本海系群A海域 令和3年度資源評価結果

ズワイガニ日本海系群A海域の生物学的特性

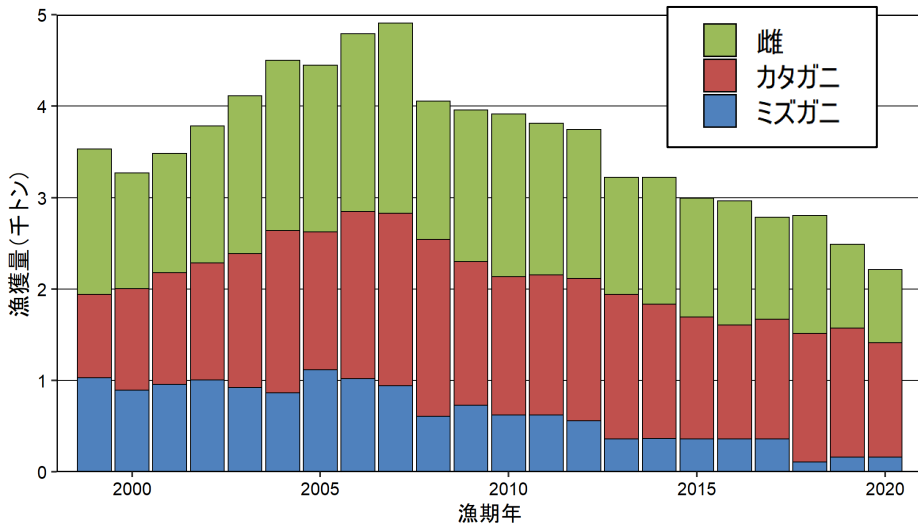


生物学的特性

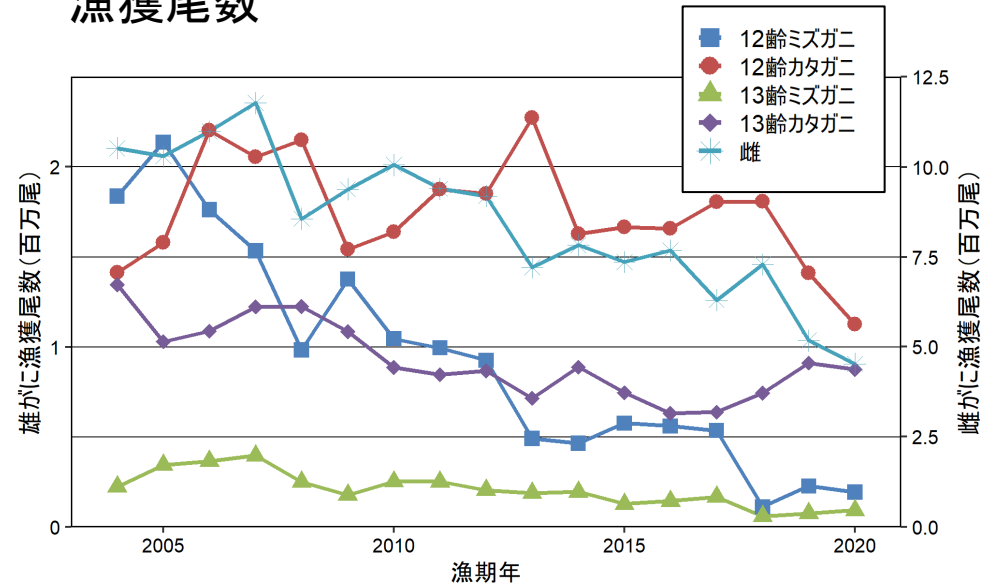
- 寿命：10歳以上
- 成熟開始年齢：
雄は脱皮齡期で11齡 以降、
11齡（5%）、12齡（20%）、
13齡（100%）、雌は11齡
（100%）
- 産卵期・産卵場：
初産雌では夏から秋、経産雌
では2～3月
- 食性：
底生生物を主体に、甲殻類、
魚類、イカ類、多毛類、貝類、
棘皮動物等
- 捕食者：小型個体はゲンゲ類、
マダラ等

漁獲量の動向

漁獲量



漁獲尾数

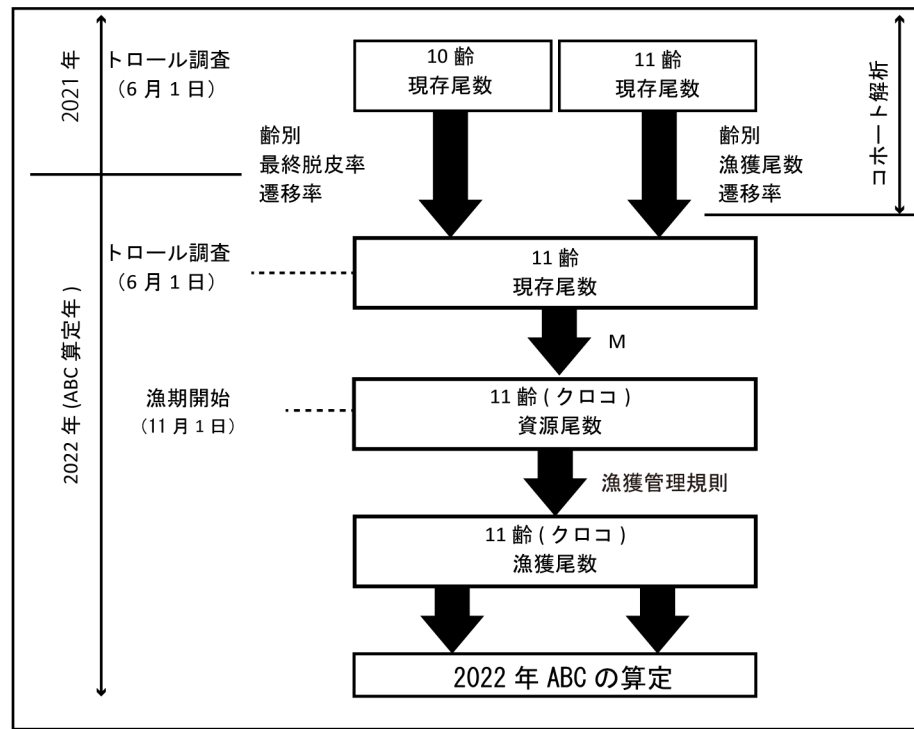
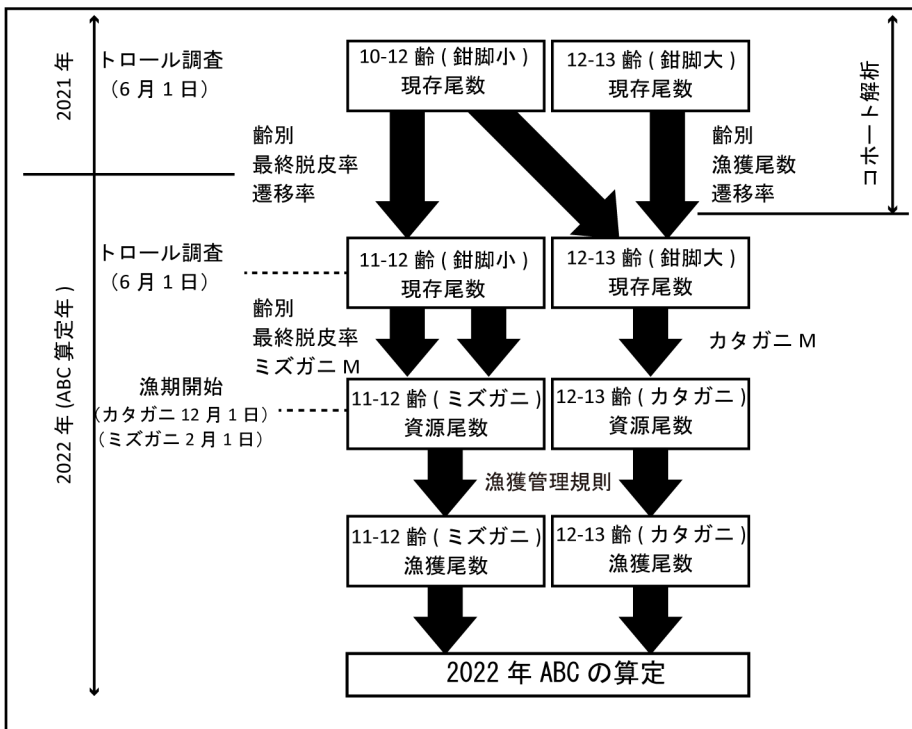


- 2020年の漁獲量（漁期年：7月～翌年6月）は雌雄込みで2.2千トン
- カタガニは2009年以降、安定して推移
- ミズガニは2007年まで1千トン前後、以後減少傾向
- 雌ガニは2007年まで増加、以後減少傾向

資源評価の流れ

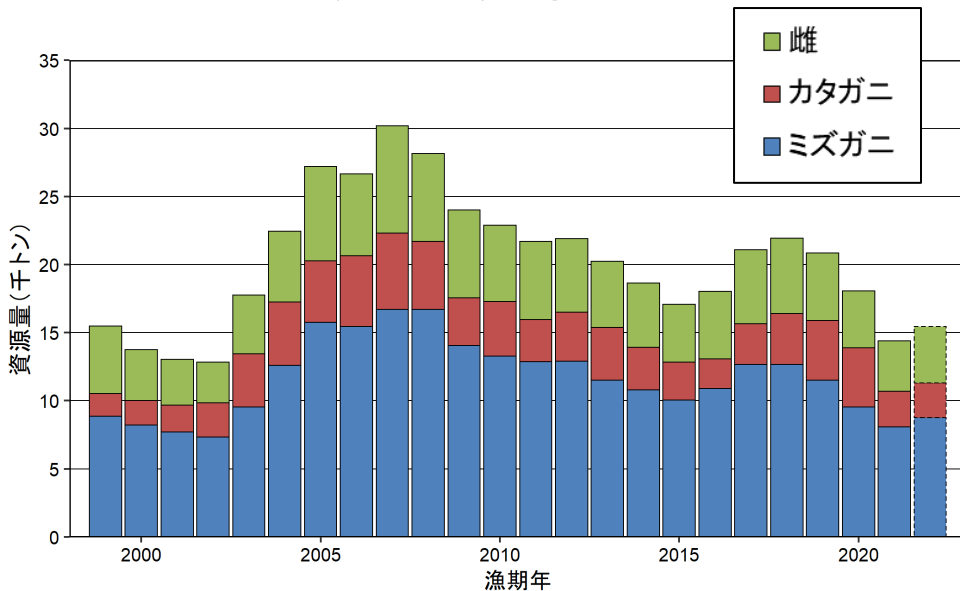
オス

メス

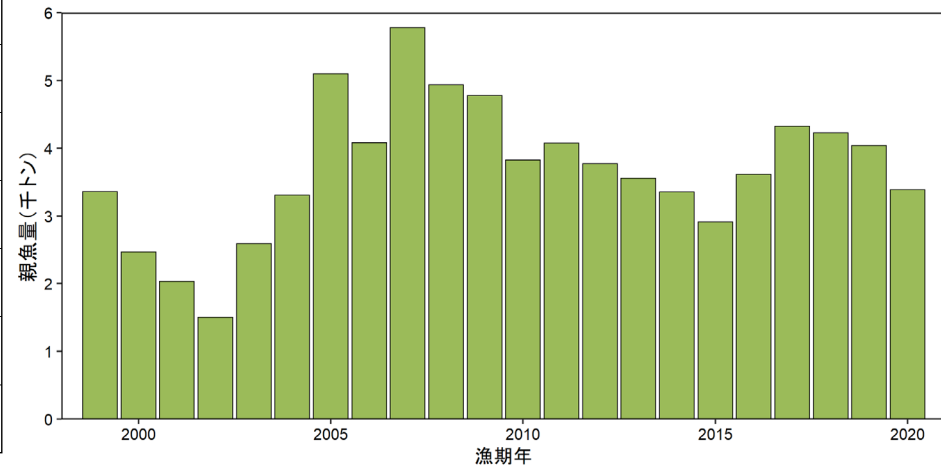


資源の動向

銘柄別資源量

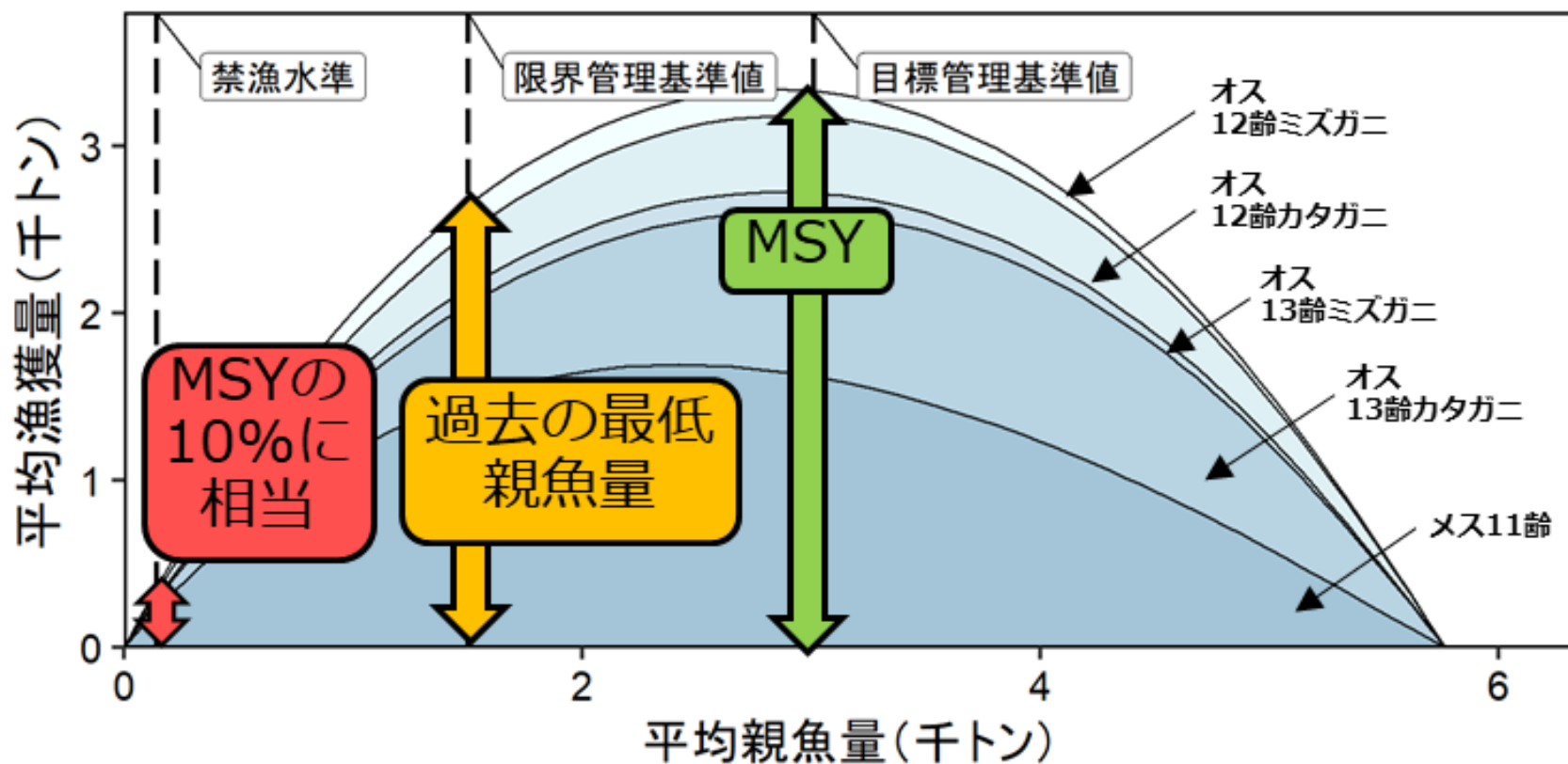


親魚量



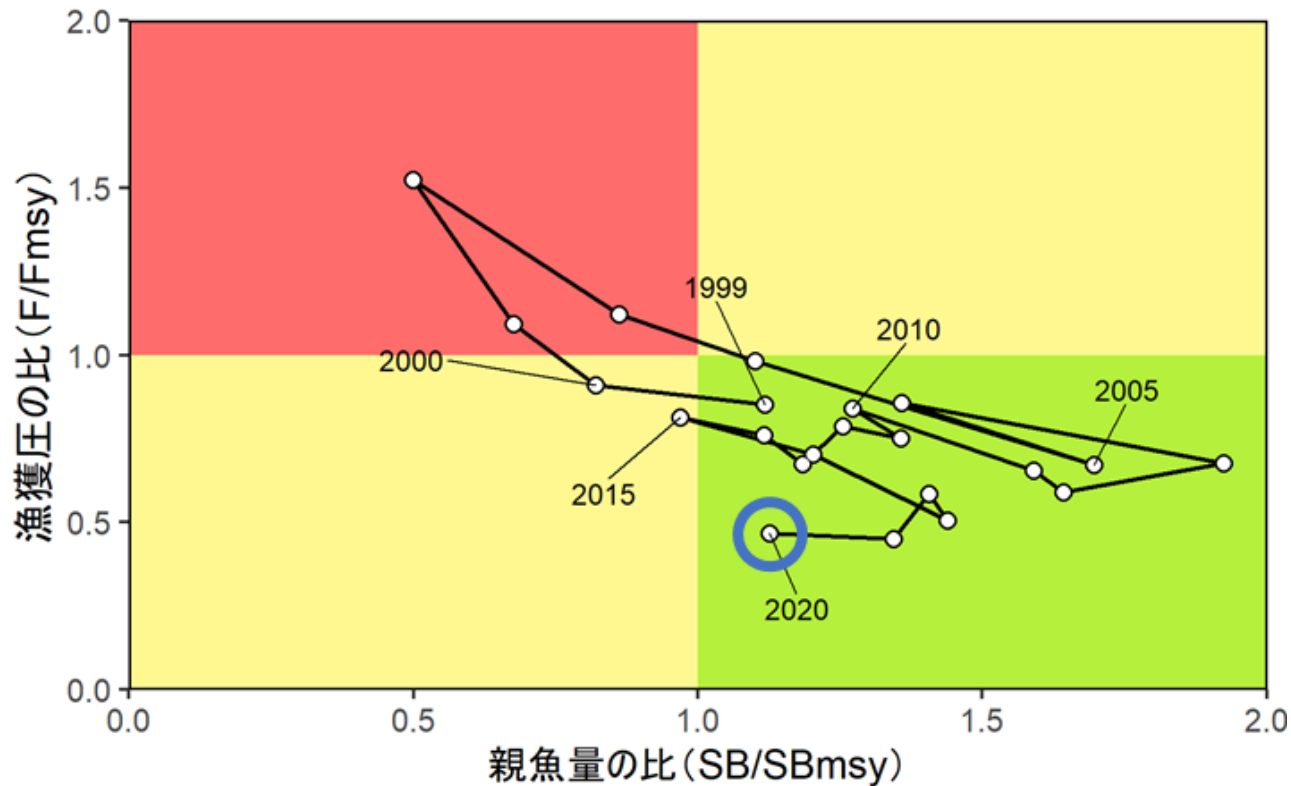
- 資源はカタガニ、ミズガニ(雄)および雌によって構成される。資源量は2007年に最大となったのち減少した。2016年から2018年にかけて再度増加したが、2019年以降減少している
- 本海域の親魚量は雌の漁期後資源量
- 親魚量も資源量と同様に推移しており、2020年の親魚量は3.4千トン
- 親魚量の動向は「減少」

ズワイガニ日本海系群A海域のMSY



- 最大持続生産量 (MSY) は 3.7千トン
- MSYを実現する親魚量 (SBmsy、目標管理基準値) は 3.0千トン

ズワイガニ日本海系群A海域の神戸プロット



※神戸プロット：資源水準と漁獲圧力について、最大持続生産量を達成する水準と比較した形で過去から現在までの推移を表示したもの

- 現状の親魚量：MSYを実現する親魚量を上回っている
- 現状の漁獲圧：MSYを実現する漁獲圧を下回っている

将来の親魚量及び漁獲量の推移

将来の平均親魚量（千トン）

2030年に親魚量が目標管理基準値（3.0千トン）を上回る確率

2030年に親魚量が限界管理基準値（1.5千トン）を上回る確率

β	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030		
1.0	3.4	2.9	2.6	3.5	3.8	2.9	2.7	2.7	2.8	2.9	2.9	100%	38%
0.9	3.4	2.9	2.7	3.7	4.1	3.1	2.9	2.9	3.1	3.2	3.2	100%	61%
0.8	3.4	2.9	2.9	3.9	4.4	3.5	3.3	3.3	3.4	3.5	3.5	100%	80%
0.7	3.4	2.9	3.0	4.2	4.8	3.8	3.6	3.6	3.8	3.9	3.9	100%	93%

将来の平均漁獲量（千トン）

β	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
1.0	2.2	1.7	3.3	3.5	4.0	3.8	3.5	3.1	3.2	3.3	3.4
0.9	2.2	1.7	3.0	3.4	3.8	3.8	3.5	3.1	3.2	3.3	3.4
0.8	2.2	1.7	2.8	3.1	3.7	3.7	3.5	3.0	3.1	3.2	3.3
0.7	2.2	1.7	2.5	2.9	3.5	3.6	3.4	3.0	3.0	3.1	3.2

漁獲管理規則に基づく将来予測において、 β を0.7～1.0の範囲で変更した場合の平均親魚量と平均漁獲量の推移

2021年漁期の漁獲量は現状の漁獲圧と資源量に基づき1.7千トンと仮定、2022年漁期から漁獲管理規則案に基づく漁獲を開始